



ふれあい通信

新年度にあたって

会長 山田久男

会員・賛助会員の皆様、京都史跡ガイドボランティア協会の活動にご協力とご支援を頂きありがとうございます。

昨年のこの時期は、新型コロナウイルスの感染拡大により全国に「緊急事態宣言」が発令され、史跡ウォークの中止が続いていました。夏季には一時小康状態になり十月からウォークを開始しました。しかしながら、十二月からの急拡大により予定していた一・二月も中止となりました。その後、再開したものの感染はとどまることなく、さらに拡大の様相を呈し、再々度、緊急事態宣言が発令されたため、五月の史跡ウォークを六月に延期することとしました。(詳細は下欄の通り)

皆様方には大変ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

協会も今年で二十三年目を迎えました。

当初からの会員・賛助会員の皆様も高齢化が進み、参加者も徐々に減少傾向に至っております。この退潮傾向を打破すべく、昨年度から従来の組織を変えて新しいチームとネーミングでウォークを実施してきました。さらに新しい会員の獲得を目指し「新会員研修」を開催したところ十名近くの方が新会員として活動に参加されました。しかしながらスムーズな協会運営にはまだまだ至りません。今年度

京都史跡ガイド
ボランティア協会
会長 山田久男
編集 澤田 卓



も「新会員研修」の強化を図ると共に、賛助会員の加入率も上げて行きたいと考えています。更に史跡ウォークの内容についても皆様の意見とご努力をお願いして参加者の増加を図って行きたいと考えています。また、会員・賛助会員の交流を含んだ新しい企画も実施する方向で検討しています。

最後に今年度も「ふれあい通信」の充実を図り、誌面をご覧頂いている皆様のご期待に添うよう努力いたします。更なる協会の発展を皆様と共に進めて行きたいと思っています。



4月5日に青春切符利用の苗木城研修会を実施。急な企画と広報不足で8名の参加にとどまりました。

コロナ下での史跡ウォークについて

四月二三日、コロナ下で京都では三回目となる緊急事態宣言が発令されました。期間は四月二五日から五月一日までです。これに對し当会は、五月一六日の第一七六回史跡ウォークを六月二〇日に延期しました。

当初の実施予定日は同宣言の期間からは外れていますが、当日案内を担当する会員向けに行う二回の下見の日が同宣言の期間にかかると、幹事会で延期を決定しました。

ところで、四月一八日の鴨東新洞地区のウォークは、まん延防止等重点措置の期間中に実施しましたが、これは、屋外の行事であり、マイク使用や三密対策の徹底で実施は可能との判断に基づくものでした。

しかし、宣言や措置の背景となる情勢が、飲食店での感染防止(営業時間短縮)だけでなく人流抑制を重視する段階では、会員・賛助会員・一般参加者のいずれもが主として高齢者である当会の実情を考慮し、延期はやむを得ないと考えます。

今後のウォーク実施の可否については、下見も含め宣言・措置にかかるか否か、背景となる情勢の内容などを総合判断して決めたいと思います。具体的には、ふれあい通信、当会のホームページ、一般参加者向けの葉書などでお知らせしますので、ご注意をお願いします。

お知らせ

第一七六回ウォーク 六月二〇日(日)

「明智光秀と坂本城址：西近江路を行く」
築城四五〇周年にちなんで坂本城址と西教寺周辺の光秀ゆかりの地を訪ねます。
京阪石坂線 坂本比叡山口駅集合



ぜんざい

チーム華 立川 登美子

名古屋の友人は大の甘党で、しかも和菓子が好き。学生時代、下宿していた龍安寺の商店街に和菓子を売る店が何軒もあり、部屋にはいつも、さくら餅だの大福だのがおりてあり、喜んではおぼついていた。今も和菓子好きはかわらず、京都にくると必ずぜんざいを食べることにしている。それで、京都を歩くコースの途中には必ず、ぜんざいの店をいれるのだが、夏場は、扱っていない店があったり、有名店には行列ができていたり、そのうえ、なんでぜんざいがこんなに高いのとなる。

ところでぜんざいとは関西と関東では違がある。関東では汁気のあるものをぜんざい、汁気のない餡そのものをぜんざいと呼ぶ。関西ではつぶあんをぜんざい、こしあんをおしること呼ぶ。

そして語源には二つ説がある。一つは仏教用語で「善哉（ぜんざい・よきかな）」を由来とする説で、最初に食べたのは、一休宗純で、あまりの美味しさに「善哉」と叫んだ事からという説。「善哉」とは仏が弟子を褒める時に使う言葉で、サンスクリット語の素晴らしいを意味している。

もう一つは出雲地方で神在祭（かみありさ）があり、その際、振る舞われたのが神在餅、その「じんざい」がなまり「ぜんざい」となつて京都に伝わったという説。神在餅説は朱子学者の林羅山が著した「梅村載筆」にも書かれている。また、江戸時代後期の風俗を記した「守貞謄稿」の善哉について、「京都・大阪では専ら赤小豆の皮を取らず、黒糖を加え、丸餅を煮る」と説明している。

また、室町時代の公卿、一条兼良は「新年の善哉」という言葉を残していて、祝いの意味を込めた食べ物だったことがうかがえる。

ぜんざいは、本来はお正月の伝統料理の一つで、年神様が去った後のお下がりの鏡餅を『鏡開き』し、このお下がりのお餅を入れて食べるもの。古来より、赤い小豆には邪気を払う魔よけの意味があり、武家社会では、新年の仕事始めや道場開きに小豆を甘く煮て、鏡餅を食べており、その年の幸福を願っていたのだ。

とはいえ、友人は、暑くなっても、どこにいてもぜんざいを食べたがる。なので、私は友人の舌を満たす為、現在も、いつも、おいしくぜんざいを食べられるお店を開拓中である。

十年一昔

チーム葵 澤田 卓

十年前の夏陸奥を訪ね、少しだけ震災ボランティアを兼ねて道の駅で車中泊をしていたら深夜に余震が発生、揺れで飛び起きた。

翌日曜日に夫婦で朝食を取っていると、他府県ナンバーを見て地元の方が、「夫婦で美味しそうでいいね。家はもう一人になったんだ。」と話しかけられて、返す言葉が見つからなかった。石巻のボランティアセンターで、地元のUさんに誘われ二十人位の班編成で、新興住宅の側溝清掃に関わった。若く賑やかなメンバーは、「チーム神戸」と称しワンボックスカーで駆け付けたとか。

その後、Uさんが、高台にある女川病院に案内してくれ、病院のロビーまで水没して多くの方がなくなつたことを知らされた。

手摺りが再建された場所に立ち、復興途上の港湾や風光明媚な海原に手を合わせました。

『驚き、桃の木、明治の記』② 渋沢栄一

チーム葵 今川博明

引き続き、渋沢栄一です。彼が役人になった大蔵省での上司は井上馨でした。井上は長州出身で維新後は外相、蔵相など歴任した人物ですが、『雷親父』と呼ばれていました。理由は、性格が短気で直ぐに人を怒鳴るからです。でも、渋沢栄一の傍では怒ることがなく、おとなしかったのです。そのため、渋沢は『避雷針』というあだ名が付けられたそうです。でも渋沢曰く、本当の避雷針は井上だったと言います。なぜなら、トラブルが起きても彼が体を張って受け止めてくれるので、自分はやりたいように仕事ができたと。当時の大蔵省の筆頭・大蔵卿という任に大久保利通がいた時の事、大久保は国の財政にあまりにも無関心なので、渋沢はそれに業を煮やし、辞表を握りしめて井上馨邸に向かいます。

「大蔵卿やその配下の者たちは、国家財政がどうあるべきか、まったく考えもせず、分かつうともしません。自分たちがいくら良い政策を立てても、これでは焼け石に水。本来の大蔵省の役割を果たせません。無駄骨を折るだけになるのは目に見えているので、辞めさせていただきます」と。ところが、井上馨はこれを思いとどまらせません。「君の言い分はよくわかる。しかし今辞められては困る。財政については、自分に考えがあるから、辞職はしばらく待ってくれないか」と言うのです。実はこの後、大久保利通たちは、条約改正の件で欧米各国を1年に渡って訪問する予定があり、その間、大蔵省の実権を握るのはなんと井上馨だったのです。

渋沢栄一は井上馨の配慮でそれまでの間、大阪造幣局の勤務となり、呼び戻されて東京に戻った時には、大蔵省から大久保一派は排除され、井上が実権を握っていたのでした。

豆知識

元号の基本 (二)

チーム彩 矢野 正明

改元には主に四つの理由があります。

- (1) 新天皇の即位による改元：「代始改元」
- (2) 凶事によるリセット改元：「災異改元」
- (3) 吉兆による改元：「祥瑞改元」
- (4) 甲子と辛酉の年の改元：「革年改元」

「代始改元」

最も多い改元で、皇極女帝より譲位を受けた弟の孝徳帝が人心一新の目的で立てた「大化」や平安時代では代始改元の嚆矢と言われる桓武天皇が即位した「延暦」、後鳥羽天皇の即位の「保元」などが有名です。

武家政権誕生後、武家側の要請により改元が行われ、特に戦国、織豊時代では、「元亀」「天正」「文禄」のように、改元が表向きは天皇の代始としながら、実態は、武家の天下制覇宣言を意味しているようです。

この時期、改元が少ないのは朝廷が極度に困窮。財政がひっ迫していたと思われまします。

江戸幕府が成立すると「禁中公家諸法度」に見られるように、武家の主導性は一層強まり、將軍の去就が大きな意味を持つようになってきました。この時期、代始改元は新天皇の即位に限らず、將軍にも適用されました。

明治に入り、一世一元の制が導入され、改元は天皇の即位のみになりました。

明治の改元にあたっては、学者の松平春嶽がいくつかの元号から選び、宮中賢所に於いて、明治天皇自ら、くじを引いて選出され、くじ引きによる元号選定は初めての事でした。今回は「災異改元」「祥瑞改元」「革年改元」についてお話しします。

花山院の出家

チーム彩 湖城 祥夫

平安時代の歴史物語『大鏡』に「花山院の出家」という話があります。「次の帝、花山天皇と申しき。」で始まるこの話は、私の高校時代の古文の教科書にも載っていました。

第六十五代・花山天皇は、御年十九歳でしたが、外孫の即位を狙う藤原兼家父子が陰謀を巡らし、天皇をだまし奉り、天皇は夜ひそかに宮中を出られ、花山寺（元慶寺）で譲位・出家されてしまう、というお話です。

国語の授業でこの話が出たとき、私はこの話にとっても興味を持ち、珍しく授業で先生が解説してくれた現代語訳というか、注釈というか、そういうものをびっしりと教科書の行間に書き込みました。

当然ながら、この話が高校三年間の国語の授業の中で最も印象に残った話だったので、大学受験で長崎から京都へ来た私は、国語の問題を見た時、わが目を疑いました。この「花山院の出家」がそっくりそのまま長文の問題に出題されていたのです。そして私は、希望の大学に合格することができました。

私が通った大学の近くにある桜の名所・平野神社で毎年四月十日に行われる桜花祭は、永観三年（九八五）四月十日に花山天皇が行幸され、臨時の勅祭が行われ、桜をお手植えされた故事に由来するものです。

私が大学生活の最初の二年間、下宿していたのも「北区平野」であり、不思議なものを感じざるを得ません。

花山法皇は、私を京都に住まわせてくださった大恩人なのです。

渋沢栄一と近藤勇

チーム雅 今井 満

入選を逃した文学賞の講評があったので、東京都北区に聞きに行った。近くの飛鳥山は桜が満開で、南側に昨年梅津のウオークで紹介したパピールファブリック門扉がある紙の博物館が、隣の博物館の特別展示で渋沢大河ドラマ館の開催があり二館を見学した。

この飛鳥山に渋沢栄一は美しい邸宅を建て、眼下に操業している王子製紙の工場を眺めて暮らした。邸宅は史料館になったが、コロナで人数制限があり、入館はできなかった。

また北区の隣が板橋区であり、地図を見ると西に4キロばかりにJR板橋駅がある。それならと方向を頼りに約一時間かけて歩くと、流山で捕えられ、板橋で処刑された新選組局長近藤勇の墓があった。

写真でお馴染みの墓碑は元新選組隊士永倉新八の尽力で建立されたのは知っていたが、その裏に当初の自然石の墓があった。



渋沢栄一が京都にいた時、近藤勇と国事犯を捕えに行った事は、ふれあい通信に触れた。故にこの墓を、渋沢栄一は参った気がする。

第一七五回史跡ウォークを終えて

チーム雅 松岡 進

コロナ禍も二年目に入りましたが、何とか二回目のウォークを終えることができました。受付時間前より多くの方がお集まりいただきありがとうございます。主催者側の私も下見を含め、発見の連続で楽しく参加させていただいた次第です。赤穂浪士関連は、私の中では山科で完結していましたが、三条北にも史跡があるなど一つのエリアにも多くの時代の歴史舞台がてんこ盛りでした。

また、ウォークに何度も参加していると途中で見かけるある作者のモニュメントを別のところでも見かけたりする場合があります。今回見かけた清水久兵衛作品も、前回の京都駅にもあったり、現職場とその前の職場でもお目にかかっていたりと思議な感じでした。それだけ著名な方ということでしょう。

この狭い京都の中でも、切り取り方次第で多くのコースが出来るというのが実感です。今後も新しい切り取り方、コースを発見していきますので、乞うご期待下さい。



錢縹（ぜにさし）

チーム華 富永 正治

・古来一文銭は四角の穴に紐を通して百枚まとめて流通していて、その束のことを錢縹（ぜにさし）といいました。

・実際は百文ではなく、中世では九七文、江戸時代では九六文を百文とする商慣習がありました。中国（北宋）ではもっと少なくて公定値は七七枚、ベトナムでは七〇枚でした。

・この商習慣は古くからあり、七一〇年代の長屋王の邸宅跡からも和同開珎が九七枚単位で出土しています。

・伊勢詣で主人の代わりに犬が参詣する（おかげ犬）ことがありましたが、広重の東海道五十三次「四日市」にも首に錢縹がぶら下がっているおかげ犬が描かれています。



おかげ犬に下げられた錢縹

・二〇一四年に京都高島屋南側の駐車場跡地から京都府内最多となる約五万枚の古銭が発掘されましたが（当会会員のI氏も関わっておられました）、これも錢縹の状態で埋まっていた。



右の写真：錢縹の入った壺 左：錢縹

引の時一枚ずつ数える手間を省く手間賃（数え賃）、または紐代（笑）だったのかもしれない。あるいは、金貨や銀貨と違って銅銭の素材にはそれほど価値がないのでだいたひ揃っておればよしとしたのかも。

・どうしても百枚より少なくても百枚として流通したかの理由ははっきりしませんが、一文は現在の価値で数十円程度しかなく、高額取引の時一枚ずつ数える手間を省く手間賃（数え賃）、または紐代（笑）だったのかもしれない。あるいは、金貨や銀貨と違って銅銭の素材にはそれほど価値がないのでだいたひ揃っておればよしとしたのかも。

会員の異動

（入会）佐野 弘

（退会）

細田茂樹、谷田輝恵、斉藤和恵、細見和一、文字英雄、清水多美子、

（三月末）